

2026年4月5日（復活日、A年）

メッセージ

「あの方はここにはおられない」

（マタイによる福音書28:1-10）

司祭ヨセフ太田信三

「あの方はここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なされたのだ。」死は終わりではなかった。死は、神に勝てなかった。死が悪の力の象徴であるならば、それもまた、神に勝てなかった。

復活は人間のたくらみ、罪、そして悪霊の力を神が打ち砕かれたということです。死をも支配する神は、どのような人間よりも、そしてどんなに強力な悪にも勝る。ローマの総督ポンテオ・ピラト、ヘロデ王、大祭司であろうと、そして「十字架につけろ！」と叫んだ群衆の渦巻く憎悪であろうと、神の前には無力であること、それが明らかにされたのが、イエス・キリストの復活です。

死者の復活というだけなら、実はそれは、世界中の古い民話の中にいくつも見いだされる、ありきたりな話の一つです。しかし、私たちにとって大切なことは、他の誰かではなく、イエス・キリストが復活されたということです。イエスは人間の悪意、恨み、嫉妬…そうしたあらゆる悪、罪によって殺されました。その十字架上の姿は、今この世界の中で、いやまさに私たちの日常のどこかで、人間の思惑や憎悪、利己心の中で、今この時も、戦争や虐待によって殺されていく子どもの姿であり、私たちが当たり前のように生きているこの社会における構造的な搾取、差別によって、飢えて死んでいく人びとの姿なのです。十字架上のイエスの姿はその小さく弱くされた命、力を奪われた人びとの姿です。神はそのイエスをこそ復活させられました。神はこれによって、ご自分が小さくされた命の側に立つことを明らかにされたのです。神は今この時も、命の価値を奪われ、捨てられていく、弱く、小さな、力のない命の側に立つ神なのです。弱くされ、力を奪われた命に、「大丈夫だ！」と、神はなんとしても希望の光をもたらしたかった。それが、イエスの復活です。だから、私たちはほかの誰でもない、イエスの復活をこそ祝うのです。そして、闇が支配しているかのように思えてしまう今のこの世界で、小さくされた命に向かって、イエスの復活を告げ知らせるのです。

イエスの復活。それは絶望の先に必ず命が用意されていることを私たちに約束する出来事です。もう駄目だ、の先がある。あなたの絶望に必ず光が灯される。イエスが死んで、復活してくださって本当によかった。心からお祝いしましょう。イースターおめでとうございます。